



12月に入り、広島県での新型コロナウイルスの感染者が急増しています。廿日市内の小学校でもコロナウイルス感染により休校した学校もありました。学校でも、感染予防を続けていきますが、新型コロナウイルス感染症には誰もがかかる可能性があることを前提に、身近な誰かが感染してしまったことを考慮した対応も必要となってきました。そこで今回、日本赤十字社監修の「新型コロナウイルスがもたらす3つの“感染症”」の考え方をもとに、新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見について考える指導を各学級で実施しました。

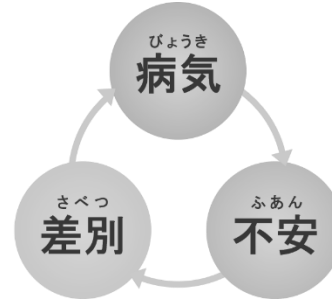
新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう



3つの“感染症”とは？

- ① “病気”そのものの感染症
- ② “不安”という気持ちの感染症
- ③ “差別・偏見”という意識の感染症

この3つの感染症が負のスパイラルとしてつながることで、さらなる感染拡大や、社会問題の深刻化へとつながっていきます。



新型コロナウイルスが怖いのは、この「3つの“感染症”」という顔があることです。

① “病気”そのものの感染症

コロナウイルスは、感染者との接触でうつることがわかっています。風邪のような症状や高熱が出て、肺炎を引き起こすこともあります。症状がでないこともあります。

② “不安”という気持ちの感染症

ウイルスは目に見えないし、まだわからないことも多いため、強い不安や恐れを感じてしまうことがあります。その気持ちは、心の中でふくらみ、気づく力・自分を支える力を弱めてしまい、不安や恐れる気持ちを広めます。

③ “差別・偏見”という意識の感染症

本当の敵はウイルスなのに、不安から自分を安心させるために、まるで感染した人が悪いと思い込んでしまいます。そして、「咳をしているからコロナ」「〇〇は危ない」などと差別や偏見が起きてしまいます。

負のスパイラルを断ち切るためにできること・・・

ウイルスの感染をひろげないために… まずは手洗い・咳エチケットの徹底、3密を避け、自分自身の感染症予防を徹底しておこなうこと。

不安にふりまわされないために… 情報源のはっきりしないうわさ話はしない・広げないこと。正しい情報を知り、落ち着いて行動すること。

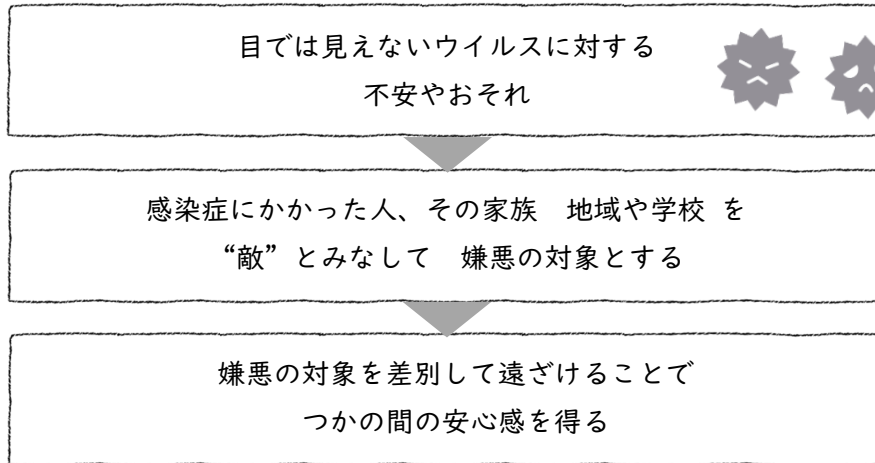
差別や偏見をひろげないために… 言い出しにくい空気をつくらないこと。自分が言われていやなことは、人に言わない。



感染症から差別や偏見が生まれる理由



人は目に見えないウイルスに対する不安やおそれを、目に見えるものにすり替えます。感染症にかかった人や、特定の地域・職業の人など、実際に目に見える感染症を連想させる人や場所などを避けたり遠ざけたりする気持ちや行動が「差別や偏見」につながっています。



新型コロナウイルスを含め、感染症は誰でもかかる可能性があります。たたくべき相手は人ではなくウイルスです。感染症への正しい理解と思いやりの心で不安な気持ちを乗り越えましょう。

今回の学校でお子さんたちが視聴した動画をこちらで限定公開しています。ぜひ、おうちのかたもご覧になっていただき、感染症に関わる社会問題についてご家庭でも、話し合ってみてください。

文科省公式



ご家庭でもご協力をお願いします。

新型コロナウイルスのニュースを見ながら、「東京から来ないでほしい」「あそこの人、コロナになったらしいわよ。怖いよね。」など何気なく発した言葉を子どもたちは聞いています。

この感染症に対する大人たちの反応は、子どもたちの受け止め方にも大きく影響します。学校でも、差別・偏見防止及び子どもたちの心のケアに努めていきたいと思っています。ご家庭でも子どもたちが感染症への正しい理解のもとに適切に行動できるよう、ご協力よろしく願いいたします。



感染予防についても引き続きよろしく願いいたします。

手洗い

- ・こまめに手を洗いましょう。
- ・清潔なハンカチを毎日持ってきてきましょう。

マスク

- ・毎日取り換えましょう。
- ・予備のマスクをランドセルに入れておきましょう。

健康チェック

- ・毎朝検温し、健康チェックカードに記入しましょう。
- ・体調不良時は、無理をせずに休みましょう。